

令和2年度 学校評価書

令和3年3月24日

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

学校法人長嶋学園

城南静岡高等学校・中学校
校長 村上 紀彦

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

I. 経営の重点に関すること

	目 標	具体的取り組み	最終評価(A～C)	評価	校関係者評価委員カ
重点目標 (産業人としての知識・技能修得、豊かな人生観を熟慮させる)	<p>○コロナ禍での授業について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密にならないように、クラスの人数を半分にするなど工夫をして出来る限り対面での授業を行う。 (教員が倍の授業時間を受け持つ) ・リモートの授業は全教科ではなく講義のみで出来る教科を行い、実習・机間巡視や個別指導が多くなる教科は分けて考える。 ・パソコン上で講義を行い、タブレットでノートを作成、教員がリモートでノートチェックが出来れば理想であるが金額が高むしクラス全員を見る場合は教員が2人必要。 ・全教科リモートになったときには、朝夕のHRまでしっかり出来るような対応をしていく。 <p>○ 中学は多読での実践的な英語や英検の資格取得を目指す。</p> <p>○ 高校ICT科については家庭学習が増える中での資格の取得を目指す。</p> <p>○ 高校普通科、特に3年生はセンターから共通テストに代わり、方向性が定まらない中での家庭学習は目的意識を保つのが大変であるが、常に進路を意識させる。</p> <p>○ 部活動は試合が中止になる中での活動であるため、目的意識を持たせる。</p> <p>○ コロナ禍でも楽しく学べる学校を目指す。教員の情報処理能力向上と設備の充実。</p>	<p>○コロナ禍での授業について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密にならないように、クラスの人数を半分にして対面での授業を行う。少人数学級で良い授業にはなるが、授業時間、日数が倍になる。 ・リモートの授業は全教科ではなく、出来る教員の教科だけを行った。実習・机間巡視や個別指導が多くなる教科は分けて考える。 ・パソコン上での講義は、出来る教員が行っているだけで、全員への講習は行っていない。今後は外部から講師を入れ行う必要がある。朝夕のHRまでしっかり出来るような対応をしていく。 <p>○ 中学は多読での実践的な英語や英検の資格取得を目指す。</p> <p>○ 高校ICT科については家庭学習が増える中での資格の取得を目指すも、プリント学習が増えた。</p> <p>○ 今年度の普通科高校3年生は全国的にコロナとセンターから共通テストへの変更で大変だった。常に進路を意識させるため生徒との個別の連絡を密にする。共通テストの模試を取り入れ、方向性が定まらない中での家庭学習に目的意識を持たせる。</p> <p>○ 部活動は学校では練習ができない時期があった。顧問は家庭での基礎練習を支持するが、生徒は練習内容に心が疲れてくる。毎日毎時間声をかけ、心が折れないように励ます。</p> <p>○ コロナ禍でも楽しく学べる学校を目指すも、校内は検温、消毒、マスクとの制限のほか。大きい声を出さないことや友達同士くっつかないことを心がけているため、全体が暗く感じた。しかし、時間がたつにつれ、外出自粛生活に疲れ徐々に大きい声、密着が多くなってきた。その都度注意。</p>	<p>B</p> <p>今年度は普通科が全員共通テストを受けました。全国的にみると、コロナ禍での受験結果は2極化しているようです。学校に登校せず、勉強が出来なかった生徒と受験勉強に集中することが出来た生徒です。コロナ禍で自律出来た生徒と出来ない生徒がはっきり分かれました。</p> <p>今年度は共通テストへの移行とコロナが同時期に動きました。学校、教員、生徒に問われることは、社会で通用する学習が出来ているかどうか。選択問題ではなく文章を読み込んで理解し、書き出す力があるかどうか。しかも進んでそれが出来る事が重要です。本校も検定資格を多く取得できた生徒と教員が目前で指導出来なかった生徒に分かれたように思います。コロナ禍でも今までと同じような結果が出せるように工夫しなければならなかったと思います。</p> <p>部活動の試合や発表会、検定が中止になったのが残念ですが、それに対応し次の手を打てるのが生徒にも教員にも必要だったと思います。</p>	A	<p>校関係者評価委員カ</p> <p>コロナ禍の状況は、今後も日々変化することが予想される。学校としても万全の体制で臨んでほしい。</p>

II. 各部・領域等に関すること

	目 標	具体的取り組み	最終評価(A～C)
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ○資格取得・検定勉強対策 ○基礎学力の向上 ○道徳教育の充実 ○地域貢献教育への取り組み 	<p>ICT科では、商業科目の検討対策として特別講習と強化週間を年間2回ずつ設け、取得率の向上に取り組んだ。大学進学に求められる英語の資格取得対策として、英語検定強化週間も実施した。普通科では基礎学力の定着に励み、学力の向上を図った。また、探究活動にも取り組み、市内を中心にフィールドワークを実施し、伝統産業を学び、問題点や解決策などを探究した。</p>	<p>A</p> <p>本年度は新型コロナウイルスの影響のため、4月から5月中旬まで休校し、その後分散登校期間を設け、5月下旬から教育活動を再開した。休校期間中は課題や動画配信で授業の補填を行い、再開後は長期休暇や行事などを縮小・中止にすることで、授業時間数を確保し、教育活動に休校の影響がないよう取り組んだ。取得資格では、2年連続で税理士試験の簿記論と財務諸表論に1名合格することができた。他にも、全経簿記上級に1名、全商全種目(9種目)1級に1名、ITパスポートに3名など、全国でもトップクラスの実績を残した。また本年度の卒業生では、全商3種目以上1級合格32名を輩出し、数多くの資格を取得し卒業させることができた。地域貢献教育では、静岡市や市内の企業と連携して、マイクロプラスチック削減についての啓発動画作成に取り組んだ。</p>
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣の徹底 ○愛される学校作り 	<p>日常的な生活指導に加え定期的な服装頭髪の検査を実施した。また、登下校時における交通指導やマナー指導、校外巡視の定期実施など校内外における風紀指導を徹底した。</p>	<p>C</p> <p>校外での生徒に対する様々なご意見等、今年は数多くご指導を頂いた。校内での指導の甘さが全てであると反省をしている。特に交通指導については交通安全キップの発付数市内ワーストとなっており、重点指導が早急に求められている。教職員一同、城南生としての在り方・愛される学校づくりを念頭に掲げ、今一度生徒指導に対し練り直したいと考える</p>
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○進路100%決定 ○進路意識の高揚 ○面談の充実 	<p>年度当初よりコロナウイルス感染拡大により、ほとんど全てのイベントが中止またはリモートとなった。7月の「校内進路ガイダンス」、8月のオープンキャンパスの中止により、進路指導部事前の情報や、大学HPからの情報を駆使した。就職希望者には、求人への期待はできない可能性があることから、進学に切り替える道を準備するように指導した</p>	<p>B</p> <p>コロナ禍における結果としては出来過ぎであると考え。進学にしても就職にしても今後の社会の変化にいち早く順応した体制を作らなければならない。できないのではなく、どうしたらそれに近づくことができるのか、そしてどうしたら生徒の希望を実現できるのが今後の課題である。</p>

評価	学校関係者評価委員から
B	<p>毎年多くの資格取得者が卒業しています。教職員の努力と生徒自身努力の結果だと思います。今年度はコロナウイルスの関係で対面授業が思うようにできなかったと思うが、全員の生徒が家庭にいても同一に学べる体制を考えていただきたいと思います。</p>
C	<p>休校が長く続き、子供たちも学校の目が届かなくなり、自由な気持ちになったと思うが、常に連絡を密に取り指導の伝達を願う。昨今、自転車でも賠償責任が発生する。通学距離があり、国道をはじめ主要感染道路を走る時のマナーを今一度ご指導願いたい。</p>
A	<p>進路に関しては、毎年一定の成果をあげており、安心して見ていることができる。就職に関しては今年より、来年が大変になると想定されるので、生徒の希望に添えるように努力していただきたい。</p>

II. 各部・領域等に関すること

保健部	○心身の健康保持増進 ○感染症対策	薬学講座(全校対象)を放送にて開催し、薬物に対する正しい知識を身に付けさせる。 新型コロナウイルス感染症対策として、検温の徹底をさせる。	B コロナ禍により、例年実施している講座ができなかったり、実施方法を変更せざるを得なくなった。 コロナ対策として検温アプリ「LEBER」を導入した。毎朝の検温の徹底につなげることができた。
部活動	○生徒の興味・関心を援助し、社会性・創造性を育てる ○より高いレベルの大会等で結果を残す	基本的な生活習慣の育成を柱とし、厳しさの中にも慈愛に満ちた指導を心掛ける。運動部においてはスポーツをする楽しさや喜びを忘れず指導にあたる。文化部においては芸術系や学問系の技能向上を自発的・自主的に活動できるような指導にあたる。	A 本年度は新型コロナウイルスの影響のため、主要な大会が延期・中止となった。その中でも開催された大会で、水泳部は県高校総体で女子のリレー優勝を始め、個人でも6種目で優勝した。テニス部は、東海大会でシングルス優勝、書道部では県高校文化祭で県2位になるなど、運動部・文化部とも活躍した。
教職員の 資質向上	○授業改善研修 ○ICT活用の研究 ○人間力向上の研究	分かりやすい授業を目指すための研修授業を行う。 コロナ禍の中でのリモート授業の研究と実践。 理事長による人間力向上の講和。	A 分かりやすい授業を目指して、まずは若手教員の研究授業を行い、授業改善をすすめた。4月から5月のコロナ禍の中でリモート授業を行い、生徒の学力低下を最小限に留めた。人間力向上のため、職員会議で理事長より指導をいただいた。
保護者との連携	○学校と保護者双方で生徒を育てるという意識で連絡を密にする	このような状況下であるため、PTA総会など行事によっては文書による開催など工夫を凝らす必要がある。	B 例年通り多くの行事でPTAの参加を考えていたが、このような状況下であるため、多くの行事で中止にしなければならないこととなった。

A	体調管理ソフト「LEBER」の導入で、毎日の検温と体調の変化に意識が向き、学校との連携が取れていたと思う。静岡市の情報など、身近なコロナウイルスなどの状況を知ることができるのも良かった。
A	コロナ禍の中大会の中止など、思うような活動ができなかった一年だったが、各部ともそれぞれに頑張っており、限られた大会の中で結果を出しているのが印象的だった。
B	色々な角度から子供たち一人一人を見て、伸ばす指導をお願いしたい。それに併せて教員自身も成長すると思う。
B	コロナ禍の中、保護者が参加する行事も多分にもれず中止となり、残念な一年だった。

II. 各部・領域等に関すること

<p>地域との連携</p>	<p>○学校行事の地域の方の参加の呼びかけ ○地域の行事に対しての職員・生徒の参加 ○学校施設の貸し出し</p>	<p>地域と学校の連携は、今年度は見送ることが多くなると考えられる。</p>	<p>B 学校行事は全て見合わせとなったが、恒例の小中學校の夏季研修、地域の夏祭り、消防署の水難救助の練習のためプールの貸し出し、水泳関連の団体や市のイベントなど、本年度も施設を貸し出した。</p>
<p>施設・環境</p>	<p>○ICT科の新入生にパソコンの貸与をする ○コロナウィルス・インフルエンザ対策</p>	<p>ノートパソコンの購入を4社見積り合わせて決定し、なるべく早い時期に生徒に配布できるようにする。コロナウィルス・インフルエンザに関しては、昨年同様にキエルキンの導入を検討する。</p>	<p>B 今年度もICT科の生徒にノートパソコンの貸し出しを行った。また、コロナウィルスの流行のため、国の指導により5月初旬まで休校措置を講じ、その後学年により時間差登校やリモートによる授業を余儀なくされた。また、多くの感染症予防用品を購入した。</p>

<p>A</p>	<p>中学部では、子供たちの手作りマスクを施設へ寄付するなど、自分たちのことはもちろん、コロナウィルスで困難になる仕事に携わる方へ思いを馳せてり、気持ちを届けることができたように感じる。</p>
<p>A</p>	<p>修理・改善などの説明を受け、改善されている様子が伝わります。</p>

<p>学校からの経営のまとめ (成果と課題)</p>	
<p>今年度前半はコロナの影響で、1年生の授業がいつもより静かに行われていた。おとなしいのではなく、出身小学校や中学校でもコロナの影響で静かな学校生活を送ってきたと思われる。静かに授業を受けるのは非常に良いことなのだが、少し暗くも感じられる。卒業式から入学式まで縮小され制限のある中で行われてきました。新入生研修も国家や校歌の練習や校訓の唱和など大きい声を出しての行事はことごとく中止されました。生徒募集でも生徒が中学校に行きプレゼンする機会も減りました。しかし、これからの社会ではプレゼン能力が問われます。会議もリモートになり、事前にまとめた資料に従ってカメラに向かってしゃべるようになります。発信する能力が必要です。聞き手もじっとしているのではなく、うなずいたり手を動かしたりと相手の話をしっかり聞いているという確認動作が必要です。このコロナ禍で特に情報処理能力とコミュニケーション能力が必要になってきます。本校では今後どこに向かったらいいのか、どう行動したらいいのかを考える能力を培っていきたいと思います。服装や礼儀とともに未来を生徒とともに考えていきます。</p>	

<p>A</p>	<p>学校関係者評価委員まとめ 少子化で経営が大変な今日ですが、理事長の努力は伝わってきます。理事長だけでなく、教師の方々も経営している意識を持つことが大切だと感じます。</p>
----------	---